

国立大学法人化12年をむかえて

応用生物科学部 学部長 福井 博一



各務同窓会の皆様には、学部の教育研究に大変なご援助を頂きありがとうございます。学部教職員・学生を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、岐阜大学は平成16年に法人化され、6年ごとに設定された中期目標・計画に基づく運営が義務づけられました。本年は第2期の最終年度にあたり、来年度からの第3期にむけた激動期に直面しています。

このような状況の下で3年目の学部長職を拝命し、3名の副学部長、事務長および事務長補佐に支えられ、学部教職員のたゆまない活動支援を受けて、新たな学部の教育・研究の発展に務めている所です。また、岐阜大学執行部として国際・広報担当理事鈴木文昭教授と学術研究・情報担当理事福士秀人教授が学部から選任され、学部の発展に貢献いただいております。

このような激動の変化の中、応用生物科学部では、これまで培ってきた様々な教育・研究の取り組みが実

を結び始めています。

岐阜県との連携では、平成26年3月の岐阜県と岐阜大学との協定調印を受けて、平成28年度末に岐阜県中央家畜保健衛生所が岐阜大学キャンパス内に移転することが決定し、移転工事が始まりしました。移転場所は応用生物科学部柳戸農場の南側の牧草地で、全国で初めて地方自治体の施設が国立大学キャンパス内に移転することになります。本年4月には、岐阜県との産業動物獣医学の教育・研究を充実させるために、学部附属家畜衛生地域連携教育研究センターを設置しました。岐阜県中央家畜保健衛生所のキャンパス内への移転が、岐阜県との産業動物獣医学教育・研究の拠点となると共に、岐阜県の畜産業界の発展に貢献できるものと期待しています。

第2の岐阜県との新たな連携事業として、本年10月の岐阜県と岐阜大学との協定調印を受けて、平成30年度に岐阜県食品科学研究所（仮称）が応用生物科学部の東側に隣接して建設されることになりました。本研

究所は、現在の岐阜県産業技術センター食品部が改組されて独立するもので、研究所と応用生物科学部校舎とは3階の渡り廊下で繋がる予定です。教員や学生が一体となって、岐阜県および地域産業界との食品科学研究・教育を進め、地域の発展に一層貢献できることとなります。

応用生物科学部では、法人化後は生命科学と環境科学の高度な専門職業人教育に力点を置き、大学院修士課程の充実に取り組んできました。お陰様で大学院進学率は50%を超える状況となり、来年度からは入学試験の英語能力の判定にTOEIC得点を導入することになりました。また、「科学者倫理」や「知財論」、「生物多様性条約およびカルタヘナ議定書」を必須科目として開講し、さらには学会発表やインターシップ実習についても単位化いたしました。

このような実践的な専門職業人教育に対する取り組みを基盤として、法人化第3期中期目標・計画に向けて、工学研究科との再編整備が計画されています。検討段階ではありますが、応用生物科学部研究科と工学研究科の修士課程が一体となって1つの研究科を構成する大きな変革となります。岐阜高等農林学校から92年の歴史を持つ岐阜大学応用生物科学部のポリシーを失うことなく、生命科学と環境科学の教育の発展に繋がりたいと考えています。

平成25年4月に発足した鳥取大学との共同獣医学科は3年目をむかえ、

遠隔授業や相互乗り入れ講義や実習が順調に実施されています。7月には共同獣医学科連携協議会が開催され、将来の共同獣医学部設立に向けた協議が始まることになりました。様々な問題が立ちあがってはいますが、地道な協議を続けて実現に近づきたいと考えています。

国際化に向けての取り組みとしては、修士課程では中国広西大学とのダブルディグリープログラムの4期生が入学し、各務同窓会寄付金の支援を受けて勉学に励んでおります。また博士課程では、連合農学研究科千家正昭研究科長の下で、南部アジア地域の4カ国7大学（インドネシア・3大学、タイ・2大学、中国・1大学、バングラデシュ・1大学）とダブルディグリープログラムの協定が締結されました。さらに、8月25日には南部アジア地域の6カ国（インドネシア、中国、バングラデシュ、タイ、インド、ベトナム）の12大学の参加の下、第4回農学系博士教育国際連携円卓会議及び国際シンポジウム2015が開催されました。

このように、応用生物科学部は着実に教育研究の成果をあげております。皆様からいただきました各務同窓会寄付金を含む様々なご支援に對しまして深く感謝申し上げますと共に、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



会長挨拶

水野 隼人（C大15）



各務同窓会の皆様には、ますます

ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。私たちの応用生物科学部に名称が変わり11年をむかえました。

時あたかも、2025年にむけ岐阜大学の将来ビジョンが策定され、学び究め貢献する岐阜大学を「人が育つ場所」と言う風土の中で実現するとしました。私たちの学部も、農学部と改組して66年。岐阜農林専門学校に改組して71年。そして私たちの大先輩が活躍してきた岐阜高等農林学校が設立され92年を迎えました。いまだ8年後には創設以来100周年と言う記念すべき時を迎えます。

一方現在の岐阜大学をとりまく課題も多くあります。
・少子高齢化の中での魅力ある大学づくり。
・地域に溶け込み、ささえる大学づくり。
・法人化のなかでの基金の必

要性。

が求められています。

同窓会自体にも大きな波がきています。

・社会構造の変化のなかで支部構成員の高齢化であり、それはとりもなおさず新規加入者にとつての魅力の問題になっていきます。

・そして大学が、大きく変化していることに気づかず、学部・大学への愛着がもう一つ持てていないことにあります。

でも、毎年卒業生はいます。大学、学部の将来ビジョンを実現するのは卒業生（同窓生）その人です。

6月の同窓会代表委員会では、久しぶりに岐阜大学内で行いました。

応用生物科学部玄関には那加キャンパスの九二八ガーデンにあった「どうだんつじ」が、本部玄関横には「黒金もち」が、そして農場入口には「高等農林学校の門柱」が皆さんのご来校をまつています。

そして8年後、私たちの学舎の100周年にむけ、同窓生15,000人の力で新しい魅力と愛着を作り上げましょう。

より密な同窓会ネットワークをつくるために。

水野 隼人

2023年岐阜大学は創立100周年をむかえます。

大学も私たちも、激動の時代、苦難の時代、そして昂揚の時代とさまざまな社会と向き合いながら歴史をつくってきました。

この間、大学も学部もそして私たちの同窓会支部も大きく変化しています。この様ななか、同窓会の現状も高齢化や、社会のありようの変化からその存続すら危うくなっている支部が出てきました。

そこで、大学創立100周年と言う（先の話ですが）目標を定め、より密な同窓会をめざして準備してはどうでしょうか。

第一に大学に愛着を持ってもらう応援を!! たとえば、10年に一度くらい大学内での支部総会を

大学の今を聞きながら（大学研究室の見学、変化への対応、目指す方向など）

夜は鵜飼と金華山
第二に卒業生や同窓生がもつと交流できる場を

「地域に役立つ大学」の地域には、卒業生がいっぱいいます。

その地域の支部の交流と情報交換の場をつくる。

第三に在校生への支援活動
期待にこたえて基金の継続

就職や会社の説明
第四に同窓会の現状と実体をリアルにつかむ

この様な事を一つ一つやりながら、100周年を元気に明るく力が出る場にしようではありませんか。

（今年度の代表委員会への提案）

各務同窓会

幹事長に就任して

幹事長 柳井 徳磨



平成27年度より、各務同窓会幹事長を拝命しました。通算3年間、各務同窓会の幹事としてお世話になります。至らぬ点多々あるかもしれませんが、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、同窓会の存在意義が問われている昨今、また、支部会員の高齢化により、いくつもの支部が閉鎖あるいは休止に追い込まれておりますので、会長および役員会も危機感をもたれ、同窓会の活性化を目指した様々な取り組みの必要性が論議されています。改革の一つとして、幹事長の任期延長であり、新規事業の具体化とその促進や、事業の見直しなどが求められています。幹事は、役員会および代表委員会における同窓会の意思決定を迅速的に具体化する役割、また、同窓会と学部、さらに大学との関係を調整することも重要な業務ですので、幹事の長の責を担うことに、身が引き締まる緊張感を感じております。

早速の大仕事は、6月6日（土）の代表委員会でしたが、今回、役員会からの、「大学を支部代表によく知ってもらうために、大学キャンパス内で開催すべし」との命題をいただき、このご意見を真摯に受け止めました。すな

わち、例年の代表委員会は慣例的にホテルで開催しておりましたが、本年度は、応用生物科学部の教室および会議室を使い、手作りの代表委員会を開催する運びとなりました。また、幸い本学部出身の鈴木および富士副学長、金竹事務長にも新たにご参加いただく僥倖を得て、大学、学部および各務同窓会のさらなる連携を目指した代表委員会を開催することが出来ました。また、参加者の皆様に学部の現状を知っていただくために「柳井キャンパスにおける「各務原の足跡」および最先端の動物病院」と題する小キャンパスツアーも企画し、多くの方に学部の現状を見て楽しんでいただきました。また、交流会においては、各支部から地酒のご寄付をいただき、経費節減と情報交換を円滑に進めることが出来ました。この場を借りて、お礼申し上げます。

今回の代表委員会のハイライトとしては、水野会長から2023年に照準を合わせた、岐阜高等農林設立100周年の記念事業の準備をスタートしたとのことご提案に対して、全会一致で、100周年記念事業に着手することが承認されました。その具体化のための企画につき、幹事一同、知恵を絞り、今後設けが予定される100周年記念事業会とも密接に連携して、来る100周年に向けて、準備を進めたいと考えます。

水野会長のご提案で印象深い点は、「100周年記念事業を契機に、同窓生に母校に対する誇りと関心を持っていただき、母校に対する一層の「愛情」を深めていただくこと。さらに、同窓会同士の絆が、各務同窓会、ひいては岐阜大学の発展に繋がる」こと。学部および大学に加えて、同窓会が有機体として機能するための環境整備のために幹事一同全力を尽す所存ですので、ご理解とご支援のほど、切にお願いいたします。

各務同窓会報

平成二十七年
各務同窓会代表委員会報告

写真1 代表委員会の様子 (応用生物科学部 101 講義室)



写真2 水野準人会長のご挨拶

平成二十七年各務同窓会代表委員会は、六月六日(土)十一時三十分から、岐阜大学柳戸キャンパスで開催されました。今回の代表委員会は、OBの方々に現在の岐阜大学のキャンパスの様子を知っていただくために、柳戸キャンパスの応用生物科学部の教室(写真1)および会議室を使つての開催となりました。当日は天気に恵まれ、初夏の新緑が美しい中、多くの方々に参加いただきました。北海道から島根県まで、三十八部四〇名の代表委員の先生方にご参加いただきました。これに役員及び幹事等一九名を合わせて、五十九名の代表委員会となりました。委員会を始めるにあたり、水野準人会長からご挨拶をいただきました(写真2)。続いて、平成二十七年年度の幹事長(柳井徳磨)、幹事(上野義仁、松村秀一、森崇、監事(梶川千賀子)ならびにご来賓の方々(鈴木文昭副学長、福士秀人副学長、金竹克広、応用生物科学部事務長の紹介後、柳井幹事長から就任の挨拶がありました。さて、議事は、議長に岐阜県職各務同窓会支部代表

平成27年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	福井 博一	
会長	水野 隼人	(C大15)
副会長	正村 洋一郎	(F大25)
	伏見 知彦	(C大18)
	北川 精一	(V大18)
	安藤 敏行	(E大19)
	森利八郎	(N大10)
	川島 光夫	(P大7)
相談役	高橋 実	(A大13)
	杉山 幹夫	(M1)
	岩井 威道	(V大1)
	新藤 秀逸	(SP21)
	中村 孝雄	(N大7)
	後藤 悦男	(V大2)

平成27年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	柳井 徳磨	(共同獣医学科)
幹事	(庶務・幹事代理) 上野 義仁	(応用生命科学課程)
	(事業) 松村 秀一	(生産環境科学課程)
	(会計) 森 崇	(共同獣医学科)
監事	前澤 重禮	(応用生命科学課程)
	梶川千賀子	(生産環境科学課程)

平成26年度支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	26.04.23	松本 康夫 東京E科現役会と合同開催
東京E科現役会	26.04.23	松本 康夫 東京E科会と合同開催
徳島鳴門会	26.04.26	向井 譲
愛知県各務会・愛知各務会	26.05.25	西村 眞一
愛知県高等学校教員	26.06.28	前澤 重禮
岐阜県高等学校	26.06.28	山内 亮 千家 正照
石川県	26.07.05	柳井 徳磨
長野北信	26.07.12	大場 恵典
岐阜	26.07.13	清水 英良
愛知県職員林務関係同窓会	26.07.25	木村 正信
愛知県職員農業関係各務同窓会	26.08.01	岩澤 淳
富山県	26.11.01	小見山 章
江南	26.11.01	木村 正信
岡山県	26.11.02	北川 均
中濃	26.11.08	松本 康夫
岐阜県職	27.02.07	会長、福井博一、 向井譲、西村眞一、 柳井徳磨
岐阜市役所	27.02.10	福井 博一
東海農政水機構	27.03.04	平松 研
岐阜大学	27.03.06	会長、副会長
三重	27.03.15	川窪 伸光

委員の熊崎政之氏が選出され、以降極めて円滑に議事を進行していただきました。第一議案は、平成二十六年度事業・決算報告及び会計監査報告で、清水英良前幹事長から事業報告が、次いで梶川前会計担当幹事から決算報告がありました。更に、今村彰宏前監事から会計および管財が適切に行われているとの会計監査報告があり、本議案は原案通り承認されました。第二議案は、平成二十七年事業計画(案)で、松村事業担当幹事から説明がありました。主要な事業としては、会報(第九十六号)の発行を本年十一月下旬に予定、平成二十八年三月二十五日の卒業式における同窓会長表彰は、学部三名、大学院二名とすることの提案があり、また、事後報告として平成二十七年四月七日の入学式・保護者懇談会で同窓会入会の勧誘活動を行ったことについての報告があり、原案は承認されました。また、柳井幹事長から創立一〇〇周年記念事業に向けての様々な準備活動に関する説明があり

ました。第三議案は、平成二十七年予算(案)です。森会計担当幹事から説明があり、承認されました。第四議題は、水野会長より、平成二十七年岐阜大学各務同窓会役員(案)についての説明があり、承認されました。その他の議案として、第一は、柳井幹事長より、役員の退任等に関する会則の一部改正についての説明があり、承認されました。第二は、水野会長より、「より密な同窓会ネットワークをつくるため」の提案がありました。第三は、梶川監事より寄付金に関する決算報告がありました。第四は、柳井幹事長より、近畿農芸化学支部、関西各務同窓会支部の廃止に関する説明があり、承認されました。第五は、梶川監事より同窓会名簿の取り扱いに関する説明がありました。第六に、柳井幹事長より大学施設の活用の一環として旧早野邸セミナーハウスについてご紹介がありました。

続いて、名誉会長の福井博一応用

成27年度 各務同窓会代



写真3 福井名誉会長のご挨拶

平成27年度 各務同窓会代



写真4 鈴木副学長のご挨拶

だん 躑 躑、屋食会を兼ねた交流会の後、柳戸キャンパスを散策していただきました。応用生物科学部高関内の岐阜高専農林(高農)徽章、応用生物科学部B棟一階の乳牛の絵、応用生物科学部玄関前並びに農場・フィールドセ

ンターのどう、今回の代表委員会は、初めて岐阜大学柳戸キャンパスでの開催となりましたが、とても和やかな雰囲気の中で充実した議事進行がなされ、同窓の絆を確かめることができました。なお、同窓会事務局へのご質問・連絡等がありましたら、058-2931341(16時以降は留守電になります)、Email: abase@gu-u.ac.jpまで宜しくお願い致します。

生物科学部長(写真3)ならびに鈴木文昭副学長(写真4)よりご挨拶がありました。最後に、本同窓会に長きに亘り、副会長としてご貢献いただいた矢井治夫氏に会長より感謝を込めて記念品が贈呈され、続いて、矢井氏からご挨拶をいただきました。



写真5 農場・フィールドセンター入口の岐阜高専農門社前で記念撮影

キャンパス内に置かれた位山産の大杉株の展示物を見学いただいた後に、農場・フィールドセンター入口の岐阜高

平成26年度各務同窓会決算報告

自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日

1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会 費	2,330,000	1,830,000	△ 500,000
入 会 金	2,280,000	1,790,000	△ 490,000
年 会 費	50,000	40,000	△ 10,000
2. 利 子	466	334	△ 132
3. 雑 収 入	520,000	477,900	△ 42,100
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
当期歳入合計 (A)	6,280,466	5,538,234	△ 742,232
前年度繰越収支差額	262,341	262,341	0
歳 入 合 計 (B)	6,542,807	5,800,575	△ 742,232

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	1,990,000	1,809,264	△ 180,736
消 耗 品 費	10,000	1,082	△ 8,918
人 件 費	1,750,000	1,705,674	△ 44,326
通 信 費	30,000	24,240	△ 5,760
旅 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	160,000	40,000	△ 120,000
雑 費	4,000	2,268	△ 1,732
2. 会 議 費	1,004,000	798,489	△ 205,511
代表委員会費	200,000	176,670	△ 23,330
代表委員会旅費	800,000	619,500	△ 180,500
役 員 会 費	4,000	2,319	△ 1,681
3. 事 業 費	2,280,000	2,208,933	△ 71,067
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	839,450	△ 60,550
雑 費	730,000	737,515	7,515
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	21,968	△ 18,032
4. 名簿関係費	7,500	1,548	△ 5,952
発 送 費	7,500	1,548	△ 5,952
5. 慶 弔 費	50,000	8,304	△ 41,696
6. 支部総会派遣費	450,000	374,700	△ 75,300
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	59,938	△ 10,062
当期歳出合計 (C)	6,001,500	5,411,176	△ 590,324
当期収支差額 (A) - (C)	278,966	127,058	△ 151,908
次期繰越収支差額 (B) - (C)	541,307	389,399	△ 151,908

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,600,000	3,580,000	△ 1,020,000
新 入 生 分	4,560,000	3,520,000	△ 1,040,000
卒 業 生 分	40,000	60,000	20,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	25,736	25,724	△ 12
当期歳入合計 (A)	4,625,736	3,605,724	△ 1,020,012
前年度繰越収支差額	59,741,075	59,741,075	0
歳 入 合 計 (B)	64,366,811	63,346,799	△ 1,020,012

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
2. 振 込 料	1,000	0	△ 1,000
当期歳出合計 (C)	3,431,000	3,230,000	△ 201,000
当期収支差額 (A) - (C)	1,194,736	375,724	△ 819,012
次期繰越収支差額 (B) - (C)	60,935,811	60,116,799	△ 819,012

3. 資産現在高

(単位：円)

項 目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	262,341	389,399
2. 基本金特別会計	59,741,075	60,116,799
合 計	60,003,416	60,506,198

4. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一般会計	基本金会計
1. 現 金	4,612	
2. 普 通 預 金		
大 垣 共 立 銀 行		
十 六 銀 行	346,004	3,668,521
三井住友信託銀行		508,478
三菱UFJ信託銀行		3,028,339
郵 便 局	38,783	
み ず ほ 銀 行		5,476,364
3. 定期定期貯金		9,605,984
大 垣 共 立 銀 行		
十 六 銀 行		21,829,113
三井住友信託銀行		10,000,000
三菱UFJ信託銀行		6,000,000
4. 振 替 貯 金	0	0
合 計	389,399	60,116,799
総 計	60,506,198	

平成27年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成27年4月1日～平成28年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 会 費	2,480,000	2,330,000	150,000
入 会 金	2,440,000	2,280,000	160,000
年 会 費	40,000	50,000	△ 10,000
2. 利 子	496	466	30
3. 雑 収 入	500,000	520,000	△ 20,000
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,430,000	0
当期歳入合計 (A)	6,410,496	6,280,466	130,030
前年度繰越収支差額	389,399	262,341	127,058
歳 入 合 計 (B)	6,799,895	6,542,807	257,088

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	1,924,500	1,990,000	△ 65,500
消 耗 品 費	5,000	10,000	△ 5,000
人 件 費	1,750,000	1,750,000	0
通 信 費	30,000	30,000	0
旅 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	100,000	160,000	△ 60,000
雑 費	3,500	4,000	△ 500
2. 会 議 費	1,004,000	1,004,000	0
代表委員会費	200,000	200,000	0
代表委員会旅費	800,000	800,000	0
役 員 会 費	4,000	4,000	0
3. 事 業 費	2,320,000	2,280,000	40,000
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
雑 費	770,000	730,000	40,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	7,500	7,500	0
発 送 費	7,500	7,500	0
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	450,000	50,000
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	70,000	0
当期歳出合計 (C)	6,026,000	6,001,500	24,500
当期収支差額 (A) - (C)	384,496	278,966	105,530
次期繰越収支差額 (B) - (C)	773,895	541,307	232,588

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	4,600,000	4,600,000	0
新 入 生 分	4,560,000	4,560,000	0
卒 業 生 分	40,000	40,000	0
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	25,878	25,736	142
当期歳入合計 (A)	4,625,878	4,625,736	142
前年度繰越収支差額	60,116,799	59,741,075	375,724
歳 入 合 計 (B)	64,742,677	64,366,811	375,866

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,430,000	0
2. 振 込 料	0	1,000	△ 1,000
当期歳出合計 (C)	3,430,000	3,431,000	△ 1,000
当期収支差額 (A) - (C)	1,195,878	1,194,736	1,142
次期繰越収支差額 (B) - (C)	61,312,677	60,935,811	376,866

学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

当課程は本年3月に学部卒業生86名を送り出し、そのうち44名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は34名で、そのうち2名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に87名の新入生および6名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には平成26年度秋季入学生1名に加えて52名が入学しております。

教員の動向としましては、本年4月1日に中野浩平准教授が連合農学研究科専任教員(教授)となられ、課程を離れました。また、今村彰宏助教および島田昌也助教が准教授に昇任されました。5月1日には食品生命科学コースにタンマウオン・マナスイカン氏(日本学術振興会外国人特別研究員)が助教として赴任されました。鈴木文昭教授は、理事(国際・広報担当)、副

学長として2年目を迎え、大学の国際化に力を注いでおられます。山内 亮教授は昨年に引き続き副学部長(総務・財務担当)として学部運営の要として活躍中です。石田秀治教授は大規模改修対策WG委員長として、学部に貢献されています。なお荒幡克己教授は、平成26年9月に日本農業経営学会学術賞を、長岡 利教授は平成27年5月に日本栄養・食糧学会学術賞を受賞されました。高見澤一裕教授と後藤清和教授は平成26年度末をもって定年退職されました。

学生の表彰に関しましては、平成26年度卒業・修了時に、高橋祐貴君(学長表彰)、加納俊史君(学部長表彰)、中島わかほ君(同窓会長表彰)、北村幸平君(学長表彰・大学院)、大島綾華君(研究科長表彰)、伊藤千弘君(同窓会長表彰・大学院)が表彰を受けました。

私共課程教員は日々、学生の教育・研究に邁進しておりますが、同窓生各位におかれましても、「産官学共同」、「地域貢献」の推進並びに卒業・修了生の就職に

つきまして、今後もご支援賜りますようお願い申し上げます。
最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたします。

(早川享志)

◆生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から86名が卒業し、内34名(他の大学院を含む)が修士課程へ進学いたしました。また本研究科第6期の修了生として生物環境科学専攻から40名を送り出し、内5名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会においては、卒業生では森ことのさんが学部長表彰、三宅彩音さんが同窓会長表彰を受け、修了生では山下有希さんが研究科長表彰、伊藤弘樹君が同窓会長表彰を受けました。

本年4月には、本課程に新入学生91名(3年生編入学生5名を含む)、研究科専攻に47名を迎えました。

次に各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは12名の教員からなり、コース長は小山西博之教授です。管理運営面では

福井博一教授が学部長・研究科長として学部および大学院の運営に尽力されております。また田中逸夫教授は岐阜フィールド科学研究センター長の任にあたっています。小山博之教授は学長補佐として活躍されております。本年3月末には百町満朗教授が退職になりました。研究活動の成果としては大学院担当の景山幸二教授が日本植物病理学会賞を、清水将文准教授が第13回日本農学進歩賞を、清水将文准教授の指導のもと五十嵐千佳さんが日本植物病理学会平成27年度大会において学生優秀発表賞を、松原陽一准教授の指導のもと山下有希さんが環境微生物系学会合同大会、2014で優秀ポスター賞を、山本義治教授、小山教授、小林佑里子助教の指導のもと中野友貴君が日本土壌肥料学会2014年度東京大会優秀ポスター賞を受賞されました。

応用動物科学コースは10名の教員からなり、コース長は土井守教授です。岩澤淳教授は入学試験委員会委員長として学部入試の最前線にたつておられます。環境生態科学コースは16名の教員からなり、コース長は川窪伸光教授です。管理運営面では向井讓教授が副学部長(教学・

研究担当)として学部の運営に、

また平松研教授は大学院委員会委員長として、千家正昭教授が連合農学研究科長としてそれぞれ研究科の運営に尽力されています。本年3月末には木村正信教授、松本康夫教授が退職になりましたが、4月には岡本朋子助教(化学生態学、昆虫生態学研究室)が森林総合研究所から、9月には広田勲助教(地域資源生態学、多様性保全学研究室)が名古屋大学生命農学研究科から着任されました。研究活動の成果として小見山章教授に中部森林管理局長から長年の国有林野の管理行政への貢献に対して感謝状が贈られました。また川窪教授の指導のもと森脩祐君が日本植物分類学会第14回大会ポスター賞を受賞されました。

課程、コース、研究室のホームページは最近著しく充実しております。インターネットブラウザで「岐阜大学応用生物科学部」の「応用生物科学部オリジナルサイト」ページから「生産環境科学課程」に入り、教員や学生の多彩な活動状況をご覧ください。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(宮川修一)

各務同窓会報

◆共同獣医学科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年4月、共同獣医学科では3期生として69名（岐阜大学32名、鳥取大学37名）の新入生を迎えました。これにより、本学科には1期生から3期生までの学生（合計で205名）が在籍することになりました。学生の進級にともない、遠隔講義システムを利用するメディア授業、学生移動型授業、教員移動型授業の数が増え、共同学科としての新たな体系・体制も整いつつあります。

たとえば昨年度からは、鳥取大学の2年生が岐阜大学に移動して行う学生移動型の合同授業として「大学教育導入演習Ⅱ」が開講されています。これには、日本中央競馬会（JRA）栗東トレーニングセンターの見学に加え、鶏の生物学や健康管理、保全に関する講義や見学など、岐阜の地域性を踏まえた内容が含まれています。アンケート結果も良好であることから、共同獣医学科ならではの教育プログラムとして、学生の興味の幅を広げるとともに、獣医師としての職業意識の育成に大いに役だ

つものと確信しております。

平成28年度から導入される「獣医学共用試験」に向けては、同試験に含まれるOSCE（客観的臨床能力試験）とvetCBT（Computer-based Testing）のそれぞれに関わる準備委員が立ち上げられ、平成26年10月ならびに平成27年3月と4月に接続試験あるいはトライアル試験が実施されました。今年度は本格導入の前年度にあたることから、試験実施要領の習得を目的に、全教員が参加してのトライアル試験を実施する予定であります。

また、「家畜衛生地域連携教育研究センター」の設置も重要な報告事項です。本センターは、平成29年に岐阜大学キャンパス内に移転予定の岐阜県中央家畜保健衛生所・高度病性鑑定センターと連携し、獣医学教育の充実を図ることを目的に本年4月1日に新設されました。現在、施設・設備の充実や他機関との共同教育体制の強化に向け、関係教員11名が奔走を続けております。

教職員一同、上記のような激動とも言える獣医学教育の流れの中、たゆまぬ努力を続けている状況です。つきましては、皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い

いたします。

（鈴木正嗣）

◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

はじめに、平成20年度から本研究科の専任教員であった鈴木徹教授が岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程の教授として転出されたことをご報告申し上げます。7年間の長期に渡って本研究科の教育・管理運営にご尽力頂きましたことに謝意を表すとともに、新天地でのご活躍を祈念致します。また、本年4月から専任教員として岐阜大学応用生物科学部から中野浩平教授を新しくお迎えすることができました。千家研究科長、中野専任教員、事務の下通室長、吉田係長、小島他、4名の係員の計9人が協力して本研究科の管理運営に努めております。

本研究科は平成3年度に発足して以来25周年を迎えることになりました。昨年度の学位授与者数は課程博士14名（内、外国人留学生7名）、論文博士3名（内、外国人留学生0名）でした。本年度の入学者は、定員20名に

対して15名（内、外国人留学生7名）で、これに秋季入学の学生も加わります。現在、本研究科には、総数76名の学生が在籍しており、外国人留学生が38名（中国、インドネシア、タイ、バングラデシュ他、計12か国）です。

現在、本研究科が最も積極的に取り組んでいるのは、本研究科が創設した南部アジア地域の協定大学と形成している農学系博士教育連携コンソーシアム（CIC）加盟大学12校（ダッカ大学、広西大学、アッサム大学、インド工科大学ゲワハティ校、アムダラス大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、スブラス・マレット大学、ランボン大学、チュラロンコン大学、カセサイト大学、ハノイ工科大学）との教育研究連携です。具体的には、加盟大学12校の修士修了生等を対象とした特別入試の導入（平成27年度入試から）、本研究科生の現地派遣（研究インターンシップ）と加盟大学博士課程学生の受入れ（サンドイッチプログラム）、本研究科教員の派遣（広報、共同研究、特別講義の実施等）と加盟大学12校の教員招聘（農学特別講義Ⅲ、共同研究の実施等）を積極的に進めています。

そのための環境整備として、加盟大学12校に岐阜大学オフィス

（ダッカ大学、スブラス・マレット大学、広西大学）の設置、共同実験室（ボゴール農科大学、スブラス・マレット大学、ダッカ大学、カセサイト大学）の設置を推し進めています。また、具体的な連携教育プログラムとしてデュアルPhDディグリープログラムの整備に取り組んでおり、すでに、ダッカ大学、スブラス・マレット大学、チュラロンコン大学、広西大学、アムダラス大学の5大学と本プログラムの覚書に調印しました。さらに、加盟大学からの入学生の経済的サポートとして、文部科学省の国費外国人留学生の特別枠の申請が採択され、本年度から3年間、毎年、修士2名、博士4名に対して国費奨学金が給付されることとなりました。

8月25日～27日には上記12校の加盟大学を招いて「The 4th UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2015」を開催しました。今回、オブザーバーとして、インドネシアのバンドン工科大学、タイのモンクット王トンプリ工科大学、ベトナムのチュイロイ大学が参加し、UGSASへの加盟に合意しました。12月には海外連携コーディネーターの加藤晴也客員教授が中心となって、インドネシアのスブラス・マレット大

学で環境科学分野のワークショップを開催し、現地の大学と企業、本研究科とインダストリー部会参加企業の研究交流を実施します。

これら一連の活動は、本研究科ホームページ (<http://www1.gifu-u.ac.jp/~rendai/>) をご覧くださう。

最後に同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(千家正照)



◆◆ 連合獣医学研究科

各務同窓会の皆さまには、ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、連合獣医学研究科も設立以来四半世紀が過ぎて、これまで、課程博士442名と論文博士137名を社会に送り出しました。設立当初の不安げな船出に比べますと、獣医学研究科が築いてきた実績は堂々た

るものであり、これまで尽力いただきました教員、大学院生、事務の方々には厚く感謝申し上げます。

昨年度の学位授与者は、課程博士18名、論文博士7名であり、多くの博士を社会に送り出しました。また、平成27年度の4月入学者数も30名と多く、10月入学の秋入学者を加えますと40名近くになる可能性もあります。特に海外からの留学生の多くが、連合獣医学研究科を選択してくれていることは嬉しい限りです。

本年度は、第2期中期目標・中期計画の最後の年であり、第3期に向けた取り組みについて検討しております。連合獣医学研究科を構成する4大学の学部レベルでの共同獣医学課程や共同獣医学科の組み合わせ（帯広畜産大学と北海道大学、岩手大学と東京農工大学、岐阜大学と鳥取大学）が異なっており、学部レベルでの教育組織の組み合わせの違いが、大学院レベルの今後の方向性にも影響を与え始めております。構成4大学の意向を受け止めながら、岐阜大学の第3期中期目標・中期計画には「再編を含め、大学院における獣医学教育を充実する」と記しております。これまで築いて

きた連合大学院の実績と効果をもとに継承し改善・発展させていくかが平成28年度から始まる第3期中の課題かと思われまます。今後とも、連合獣医学研究科にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(石黒直隆)

◆◆ 附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度も実習・講義、公開講座、体験・見学対応などに従来以上に活発な活動が続けております。演習林では県からの補助金事業である森林経営計画事業（林道新設および森林管理・木材搬出の外部委託）が二年目を迎えました。昨年度は林道の開設作業により赤字を覚悟していましたが、予想に反して黒字になりました。今年度以降は収益の増加が期待されています。また農場生産物の学部職員向け配達販売や本部棟などでの移動販売の取り組みを始めました。人事面では、非常勤職員の池田さんと障がい者枠で採用されていた松波さんが任期満了に伴って三

月末をもって退職されました。本年四月から新たに再任用職員として附属病院調理室に勤務されていた山田さん（柳戸農場）、坂口さん（美濃加茂農場）、障がい者枠で春日井さんがそれぞれ着任されました。なお、長年にわたり農場業務を担われてきた神原正昭さんが来年三月末で再任用職員の任期を終えられる予定です。その他、岐阜県中央家畜保健所の柳戸農場牧草地への移転工事が七月末から開始され平成二十八年度末完成の予定となっています。柳戸農場の畜舎建物の全面的な改修に向けた平成二十八年度概算要求も昨年に引き続き申請されました。

このように関係者一丸となってセンターの発展に向けて努力しておりますので、今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(田中逸夫)



◆◆ 動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度も共同獣医学科の前田貞俊が動物病院院長を引き続き務めさせて頂いております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

動物病院の常勤教員は任期付き教員を含めて現在17名ですが、本年度は病院の収入を原資として、内科、外科および腫瘍科に助教を1名ずつ新たに採用することが決定しました。教員の充実をはかり、診療、教育および研究のレベル向上に努めていきたいと考えております。

本年度からの新規事業についてご紹介いたします。これまで動物看護師によって行ってきた院内の血液検査ですが、この4月より民間の業者に大学内で委託するプランチラボシステムでの実施に移行しました。プランチラボシステムはすでに酪農学園大学や日本大学で導入されており、国立大学の動物病院では初めての試みとなります。プランチラボシステムの導入によって、これまで検査業務を担当していた動物看護師が本来の看護業務に集中することから、診療の効率化が図れるのではな

いかと期待しております。

平成26年度の診療件数ですが、約9,000件に達しました。平成16年度の診療件数は5,000件でしたから、この10年で診療件数は約2倍、収入は約6倍の増加となりました。収入だけをみますと、10校ある獣医系国立大学の中では上位3番目、公立大学および私立大学を含めた獣医大学16校の中では上位6番目となります。今後も、愛知県および三重県を中心とする地域獣医療ネットワークをさらに強化させ、中部地区における基幹病院としての責務を果たしていく所存です。

(前田貞俊)

◆野生動物管理学 研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まず、岐阜県による寄附研究部門の「鳥獣対策研究部門」に関するご報告です。角田裕志先生におかれましては、本年3月末日で同部門を退職され埼玉県

の環境科学国際センターの常勤研究員に着任されました。替わって、野生動物医学研究室にてツキノワグマの調査に携わってこられた森元萌弥先生が特任助教として採用されました。この新体制のもと、捕獲個体から得たデータ収集・解析や狩猟実態のアンケート調査、シカによる森林被害モニタリング調査等を継続すると共に、その結果にもとづく政策提言を続けております。

教育・普及啓発面では、岐阜県教員免許状更新講習の講義のほか、野生動物管理学研究センターの提供授業(野生動物管理学入門)も社会人公開授業として継続しております。また昨年度以降も、定例のシンポジウム・セミナーとして、「鳥獣行政における専門家配置のあり方を考える」や「新米猟師のための超速！捕獲技術向上法」等も開催いたしました。

以上のとおり、センター員一同、岐阜県のみならず日本全国を視野に入れた活動を精力的に進めております。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

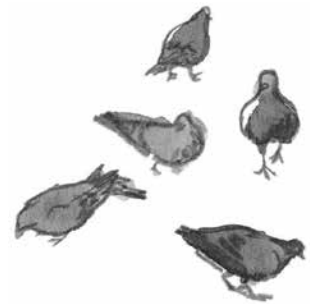
(鈴木正嗣)

◆比較がんセンター

各務同窓会会員の皆様に比較がんセンターの近況をご報告申し上げます。

本センターは設立から6年目になりますが、動物とヒトのがんを克服するという大きな目標に向かって日々前進しております。

難治性がんの研究では、犬口腔内メラノーマに対して本センターで開発した新規治療薬を犬臨床試験で評価中です。血管肉腫については犬とヒトの病態学的比較検討を進めており、犬とヒトの新規治療薬の開発に結びつけたいと考えています。また、平成25年度に開始した岐阜県市町村および岐阜県獣医師会と共同で実施している「岐阜県犬腫瘍登録制度」は3年目になります。そして、今年度からは新規



プロジェクトとして、「家庭犬のがん予防研究」を開始し、家庭犬のがんを減らして健康寿命を延ばすことを目標にしています。本センター設立5周年記念として、恒例となつています比較腫瘍学シンポジウムを市民公開で実施し、併せて本センターの成果報告書を今年度中に作成する予定です。

今後は、全学の生命科学関連の組織改組が平成29年度に実施されますので、比較がんセンターは発展的に解消して、全学の生命科学拠点に参加し、さらに比較がん研究を加速させていきたいと考えております。今後ともご指導とご支援の程お願い申し上げます。

(丸尾幸嗣)

◆共同獣医学教育開発 推進センター

鳥取大学との間での共同獣医学科が設置3年目を迎え、基礎系から病態・応用系の授業が始まる段階に入りました。実際に共同で実施される1年間の授業数は、学生移動型3、教員移動型9、遠隔講義型19と全体の授業数の半分以上31となつています。最終的には、すなわち完成

年度では、半分弱の57の授業(学生移動型6、教員移動型11、遠隔講義型40)を共同で実施することになります。このように、両大学教員の共同教育による専門性の拡大は、学生に大きな教育効果をもたらすことが期待されます。一方で、学生移動型授業は、通常の学期内で実施することは難しく、夏休み・春休みに行われます。また、教員移動型では、片道約6時間の道のりが教員の大きな負担となつていきます。遠隔での授業に関しましても、教員が培ってきた対面教育とは異なるスキルが必要となつていきます。さらに、昨今の緊縮財政から、移動経費、機器維持経費等、財務的な問題も抱えています。我が国の獣医学教育の質の改善を目指して始まった共同教育につきまして、引き続き、皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願いいたします。

(杉山 誠)



教員の異動

定年退職

H27. 3. 31
応用生命科学課程 食品生命科学
後 藤 清 和

H27. 3. 31
応用生命科学課程 分子生命科学
高見澤 一 裕

H27. 3. 31
生産環境科学課程 応用植物科学
百 町 満 朗

H27. 3. 31
生産環境科学課程 環境生態科学
木 村 正 信

H27. 3. 31
生産環境科学課程 環境生態科学
松 本 康 夫

昇 任

H27. 4. 1
応用生命科学課程 分子生命科学 准教授
今 村 彰 宏

H27. 4. 1
応用生命科学課程 分子生命科学 助教から
島 田 昌 也

H27. 4. 1
応用生命科学課程 食品生命科学 准教授
森 元 萌 弥

採 用

H27. 4. 1
生産環境科学課程 環境生態科学 助教
岡 本 朋 子

H27. 5. 1
応用生命科学部附属野生動物管理理学
研究センター 特任助教
森 元 萌 弥

H27. 5. 1
応用生命科学課程 食品生命科学 助教
タンマウオン マナスイカン

新任教員のあいさつ



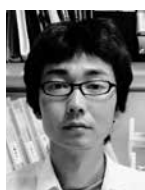
岡本 朋子

平成27年4月1日付けで応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コースの助教として着任いたしました岡本朋子と申します。兵庫で生まれ、大阪で育ち、京都で研究の土台を築いた根っからの関西人です。岐阜県民としてはまだまだ初心者で、これからの冬を前に一抹の不安を感じております。

私が研究者を志したきっかけは少し変わっています。高校を卒業後、大学進学資金調達のためフリーターをしていた時に、耳下腺に腫瘍があることが判明しました。ただの腫瘍だと思われたものは、実は寄生虫で、当時日本に留学していた中国の寄生虫研究者によると、有鉤条虫の可能性があるとのことでした。現在となつては種の正否はわかりませんが、その寄生虫と、少なくとも7年間互いに害をなすことなく共に生きていたことに、当時の私は非常に感心したことを覚えてい

ます。私は自身に起こったこの妙な体験を通じて、生き物が生き延びるために備えている戦略と、その進化について興味を持ちはじめました。現在では、昆虫を中心とした種内・種間相互作用における、情報化学物質の役割や進化について研究を行っています。この“生き物同士の関わり合い”への関心は、寄生虫体験が土台になっていると感じています。

これからは岐阜大学の教員として、学生や教員、事務の方々と相互作用をしながら努力し、成長していければと考えております。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



森元 萌弥

平成27年5月より応用生物科学部附属野生動物管理理学研究センター鳥獣対策研究部門の特任助教を拝命いたしました森元萌弥です。平成22年に岐阜大学応用生物科学部獣医学科を卒業し、この年から平成26年度まで、野生動物管理理学研究センターで技術補佐員及び特

タンマウオン マナスイカン
(THANMAWONG Manasikan)



定研究補佐員として岐阜県の大規模野生動物の保護管理対策委託業務に取り組んでまいりました。教えを仰ぐ立場として命を受けた場所で教員としての覚悟があります。鳥獣対策研究部は岐阜県からの寄付金を受けて運営されている研究部門であり、昨今増加・拡大している鳥獣による被害について研究し、岐阜県での野生動物保護管理対策の向上に寄与することを目的としています。野生動物の管理は、対象となる生物の状況、対象となる地域の人の状況、管理を遂行するシステムの状況によって、判断や施策が大きく変化します。私はツキノワグマを含む大型哺乳類の管理を主な研究対象としており、森林面積率が81%である岐阜県においてどのような対策や対応が有効であるのか、人の社会的・文化的な側面との協調を含めて管理の仕組みを考えて行きたいと考えております。

岐阜大学の地域貢献、地域協力を少しでも強化できるよう努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年5月に、応用生命科学課程食品生命科学コースに助教として着任しましたタンマウオン マナスイカン (THANMAWONG Manasikan) と申します。私は、平成14年3月にタイ王国チェンマイ大学理学部生物学科を卒業後、弘前大学大学院農学生命科学研究科修士課程、岩手大学連合大学院農学研究科博士課程へと進み、平成20年3月に修了し、博士(農学)の学位を取得しました。同年4月に独立行政法人(現国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所に博士研究員として採用され、青果物の収穫時・収穫後の品質管理や青果物の品質変化メカニズム解明と品質保持技術開発に関する研究を行ってまいりました。

消費者に高品質な青果物を安定的に提供するためには、収穫から消費に至るまで、適切な管理を行い、品質劣化を防止する必要があります。青果物は、



教員・旧教員の受賞

柳井 徳磨 教授
中部獣医師会連合会 会員表彰
平成26年8月30日

椎名 貴彦 准教授
第56回日本平滑会総会 優秀演題賞
平成26年8月8日

伊藤 直人 准教授
平成26年度 日本獣医学会賞
平成26年9月10日

小林 佑理子 助教
日本土壤肥料学会2014年度
東京大会 優秀ポスター賞
平成26年9月10日

荒幡 克己 教授
日本農業経営学会賞学術賞
平成26年9月19日

清水 将文 准教授
第13回日本農学進歩賞
平成26年11月28日

高須 正規 准教授
2014日本ウマ科学会奨励賞
平成26年9月11日

椎名 貴彦 准教授
第17回日本獣医学会学術集会
生理学・生化学分科会奨励賞
平成26年9月11日

石黒 直隆 教授
第65回(平成26年度)岐阜新聞大賞
平成27年2月14日

景山 幸二 教授
日本植物病理学会賞
平成27年3月29日

長岡 利 教授
平成27年度日本栄養・食糧学会賞
平成27年5月14日

退職記念事業終了の報告

「後藤清和教授退職記念」事業報告

応用生命科学課程食品生命科学コースの後藤清和教授は、平成27年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、平成元年岐阜大学農学部に着任後、農学部および応用生物科学部において教育と研究に従事され、その多年にわたる功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

退職記念事業として、平成27年2月4日(水)午後1時から応用生物科学部101多目的ホールにおいて、「お米を守るポストハーベスト技術」と題する最終講義が行われました。教員、学生のみならず、多数の卒業生のご参加も得て、盛大な最終講義となりました。さらに、平成27年5月3日(日)には、岐阜都ホテル湊の間において、定年退職記念祝賀会が開催されました。最終講義当日には仕事で参加できなかった卒業生の

方々、そしてかつての留学生も中国からご参加され、大変な盛会となりました。

また、7月11日(土)に開催されました応用生物科学部シンポジウム「酒と食の文化の実践的理解」ではお酒と米に関するご講演をされ、米に対する先生のご見識の深さにあらためて触れる機会がありました。先生には今後のご活躍と、益々のご健勝をお祈りして、事業報告とさせていただきます。

(西津貴久)

「高見澤一裕教授退職記念」事業報告

応用生命科学課程分子生命科学コースの高見澤先生は、平成27年3月31日をもって定年退職されました。

最終講義が2月4日(水)午後3時30分から101多目的ホールにて「公害対策・環境改

善から環境創造へー微生物と共に歩むー」と題して行われました。現職の教員や学生はもとより、遠方からも多数の卒業生や多くの関係者の皆様が駆けつけ、立ち見がでるほどの盛大な最終講義となりました。

また、5月2日(土)には、ホテルリソル岐阜にてご退職記念祝賀会が開催されました。祝賀会には、岐阜大学着任からの学生から在学生ら100名余りが集い、先生と過ごした日々の思い出を語り合いながら楽しい時間を過ごしました。

現在は放送大学岐阜学習センター客員教授、愛知文教女子短期大学非常勤講師、株式会社コンティグ・アイ取締役に加え、公的・非営利法人の各種委員や学会誌の編集委員などを精力的に務められ、お忙しい日々を過ごされています。高見澤先生の今後益々のご健康とご活躍を祈念して、事業報告とさせていただきます。

(中村浩平)

「百町満朗教授退職記念」事業報告

生産環境科学課程応用植物科学コース植物病理学研究室の百町満朗先生は平成27年3月31日をもって定年退職されました。

退職記念事業として、平成27年3月7日（土）17時30分よりじゅうろくプラザ一階のレストランにて定年退職記念謝恩会が催されました。現職の教員や学生はもとより、共同研究者として親交の深かった近畿大学および東北大学の先生方、先代教授の池上八郎先生、卒業生など合計60名を超える方々にご参加いただきました。宴席では、百町先生の学生時代から現在までの写真を集めたスライドが上映され、想い出話に花が咲きました。先生には謝恩会参加者よりのお祝いの品として、スポーツ自転車を贈らせていただきました。

百町先生の退職記念謝恩会にご参加いただきました皆様方には心から御礼申し上げます。

最後になりましたが、百町先生の今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（清水将文）

退職予定者のあいさつ

定年を迎えて

丸尾 幸嗣



私は平成16年3月1日に前職の東京農工大学から岐阜大学獣医分子病理学（臨床腫瘍学）研究室に教授として赴任し、それ以来12年1ヶ月の間お世話になる予定です。

それまで専門にしていた獣医外科学から、その当時わが国立獣医大学では初のがんに特化した教育研究ができるということ、50歳を超えていましたが、希望を胸に張り切っていたことを思い出します。新設の研究室の立ち上げは大変だと思われがちですが、伝統が無い分自由にやってこられたように思います。朝ゼミは研究室に配属された一期生が提案し、今も続いています。これは夕方に設定しても、診療のためゼミの開始時間が度々遅れたことによります。このように、臨床系の研究室なので、同時に附属動物病院の診療も担当します。赴任2年目に新たに腫瘍科を設置していただきました。診療に際しては、がんの症例については地域の中核病院とし

て、難しい症例や高度な診療が必要な症例は全面的に受け入れたいと思い、それが実現できる診療体制を整えてきました。このような考えに至ったきっかけは、平成10年から翌年にかけて文部省在外研究員として米国ウイスコンシン大学マジンソン校に派遣され、地域の伴侶動物（米国では犬や猫に加えて、馬も）の病気の最後の拠り所となっていた附属動物病院の現場を目の当たりにしたことでした。これを手本にして、腫瘍科の運営をやってきました。

研究面では、岐阜大学に来てから本格的に「比較腫瘍学」に取り組みしました。私は過去にヌードマウスとヒトのがんの研究に従事する時期があり、実験動物としての特性研究は獣医師、それに移植されたヒトがん研究は医師が研究することになり、獣医師と医師が一体となつて研究を推進した経験があります。また、伴侶動物医学は個体診療の方法や診療技術が「類医学的」といわれ、医学のノウハウをたくさん取り入れて発展してきました。そのようなことから、伴侶動物医学の中のがん研究は、動物とヒトのがんに境界を設けず、一括りにして検討していくほ

うが、より大きな成果を上げることでできるのではと思つています。そして、赴任7年目に念願のわが国初の比較がんセンターを設置していただきました。設置後6年目になりますが、比較がんセンターの特徴を生かした成果が出てきております。

このように、岐阜大学での教員

退職記念事業のお知らせ 丸尾幸嗣教授の 定年退職のお知らせ

共同獣医学科獣医分子病理学（獣医臨床腫瘍学）分野の丸尾幸嗣教授は、平成28年3月をもって定年退職されます。

先生は、東京農工大学農学部獣医学科をご卒業後、同大学院修士課程を修了されました。その後日研化学株式会社、実験動物中央研究所腫瘍研究室に勤務され、昭和60年に麻布大学にて獣医学博士の学位を取得されました。平成元年には東京農工大学農学部獣医学科の助教授として着任、平成16年に岐阜大学応用生物科学部獣医学課程教授として転任されました。岐阜大学では、国公立大学の附属動物病院で初となる腫瘍専門診療科を

生活は私にとって自由でやりがいのある期間であったと心から思っています。それは、本応用生物科学部の皆様のご支援とご鞭撻の賜物と感謝しております。将来に向かって、本応用生物科学部の発展と、教職員の方々のご活躍をお祈りいたします。

立ち上げられ、犬、猫の腫瘍性疾患の診断治療および研究に精力的に取り組まれ、多くの業績を残されました。また、動物と人のがんを比較することでお互いのがんの克服を目指し、応用生物科学部附属比較がんセンターの設立にご尽力され、そのセンター長として手腕を振るわれました。

先生のご退職を迎えるにあたりまして、最終講義を平成28年2月10日15時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催いたしますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義終了後、16時30分からA棟2階第1会議室において茶話会を開催する予定です。

（森 崇）

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で、平成19年度に設立されました。平成26年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

中 島 わかほ

生産環境科学課程

三 宅 彩 音

獣医学課程

山 田 大 悟

応用生命科学専攻

伊 藤 千 弘

生物環境科学専攻

伊 藤 弘 樹

中 島 わかほ

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、心より御礼申し上げます。これまでにご指導、ご支援を賜りました先生方をはじめ、先輩方、友人たち、そして家族に重ねて深く感謝申し上げます。

岐阜大学に入学して、自分の進むべき道を見つけることができ、4年間充実した日々を過ごすことができました。今後はこれまでで得た知識、経験を活かしながらより一層精進して参ります。

三 宅 彩 音

この度は、同窓会長賞という身に余る賞を授与していただき、誠にありがとうございます。これも、熱心にご指導してくださった先生方、先輩方、苦業を共に学んだ友人達、そして支えてくれた家族のおかげであると思っております。心より感謝申し上げます。

今春から社会人となり、不安と期待を胸に日々を送っておりますが、岐阜大学での4年間の学生生活で学んだ知識、経験を活かし、社会に貢献できるように精一杯努めてまいりたいと思っています。

晩秋の候、皆様にはますますご発展のこととお慶び申し上げます。

山 田 大 悟

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただきまして、誠にありがとうございます。学生生活の最後にこのような賞をいただくことができ、社会人としての生活を始める上で大きな励みとなりました。

岐阜大学での6年間は、熱意を持って指導していただいた先生方、先輩方や、ともに学び支えあった友人たち、そして家族のおかげで、獣医師としての専門知識の習得だけでなく、多くの貴重な経験を積むことができました。

今後は社会人として、岐阜大学での貴重な経験を活かしながら、社会・地域のために貢献できるように精一杯努力していきたいと思っています。

敬具

伊 藤 千 弘

この度は、思いもよらずこのような名誉ある賞をいただき、誠に嬉しく思います。

在学中の学会や高校への出前講義の参加において多種多様な考えの人と話すこと、実験を進めることや論文を読むこと等日常の出来事には自分が今まで気づいてなかった面白い発見がぎゅっと詰まっていました。

私は昔からあがり性だったので慣れない場には手が震えるほど緊張することが何度もありました。また研究発表や実験が全て順調に進むことはないもので、深く落ち込んで塞ぎ込むことも多かったです。

しかし、様々な体験をするこ

とで自分の考えがどのように変わるのかまだ知らない世界を発見したい衝動にかられ、どんな状況でもうずうずして堪りませんでした。

貴重な機会に参加できるよう支えてくださった教員の方や家族・今まで出会った方に深く感謝します。

伊 藤 弘 樹

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。これも、普段から熱心に指導してくださる先生方や研究室の先輩方、同期や後輩達、そして、他方面において支えていただいた両親のおかげだと感じています。

修士課程の2年間は、研究における知識や技術の習得はもちろんのこと、外部との共同研究、海外の大学教授や留学生との交流などを通して、自分では想像できなかったほどのたくさんの経験が得られました。

この同窓会長賞を励みとし、これからも一層研究に励んでいきたいと考えています。

吉寄基金

平成26年度受領者報告

微生物燃料電池の稲ワラ実証装置の設置

中村 浩平

吉寄清己研究支援(奨励研究)より、「微生物燃料電池の稲ワラ実証装置の設置」の課題でご支援頂きました。平成25年度から継続して微生物燃料電池に関する研究支援を頂きました。

昨年の各務同窓会報でもご報告した微生物燃料電池は、微生物が分解可能な物質から発電します。それゆえ、自然界で微生物によって分解される稲ワラからも、微生物燃料電池は発電可能です。今回の奨励研究では、実際に稲ワラから発電する微生物燃料電池(微生物稲ワラ燃料電池)を作成し、その設置(オープンキャンパスや岐阜大学フェアにおいて)を行いました。岐阜大学フェアで公開した微生物稲

ワラ燃料電池が発電する様子を、環境微生物工学研究室のホームページからご覧頂けます。この微生物稲ワラ燃料電池は今後も主に学内での展示等に活用させて頂きたいと思っています。

稲ワラのような有機物からも微生物燃料電池は発電可能です。しかし、その発電力は水素等を燃料とする化学燃料電池と比べて極めて小さく、また単に装置を大型化しても、装置体積あたりの発電力は低下することが多いようです。その発電力向上のため、装置自体の改良と発電の鍵となる電流生産微生物の研究が、多くの研究者によって精力的に行われています。我々もこれらの研究を通じて岐阜大学の名声を高めるべく、研究に邁進しています。

最後になりましたが、ご支援頂きました吉寄清己さまに心より深謝致します。



低環境負荷型社会実現に向けた「C₁微生物」の細胞機能の戦略的活用に向けた基盤構築

中川 智行

メタノールは植物バイオマスや温暖化ガスであるCH₄やCO₂から直接合成できるC₁化合物であり、燃焼の際、水とCO₂に完全酸化される環境負荷の少ない次世代型エネルギーのひとつに数えられる。筆者らは、メタノールを炭素源として利用できるC₁微生物の持つ特異な能力に着目し、その能力の有効活用に向けた研究を行っている。例えば、メタノールを出発原料に様々な有用タンパク質や有用化合物を合成するためのC₁微生物による発酵生産系の構築や、C₁微生物を新たな植物生育促進技術に応用するなど、C₁微生物の特異な細胞機能を用いた新たな技術革新を目指している。C₁微生物の能力を最大限に引き出すことで、CO₂排出の少ない低環境負荷型社会の構築の一端を担えればと考えている。

最後に、私どもの研究内容にご理解いただき、また、本研究に対してご支

援いただきました吉寄清己様に心より御礼申し上げます。

C₁₉吉寄清己研究支援寄附金の今年度受領者

早川 享志

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己氏からの支援は「吉寄清己研究支援寄附金」として平成19年度から始まり、本年度を含めて延べ13名、支援金総額は1,100万円となっており、氏の課程に対する篤志には頭が下がるばかりです。本年も吉寄氏の期待を担って2名の教員に各75万円の寄附金が授与されております。中村浩平准教授は、「新奇鉄還元細菌TKM1株の電流生産能に関する研究」、中川智行教授は、「低環境負荷型社会実現に向けた「C₁微生物」の細胞機能の戦略的活用に向けた基盤構築」というテーマで研究を進めております。お二方には、吉寄氏が望んでおられる大学研究の社会貢献を目指して更なる研究の進展が期待されております。

支部会員からの便り

各務同窓会石川県支部について

前支部長 E大9

手取屋 征夫

平成27年度の支部総会も7月4日本部から村松教授をお迎えし、石川県在住会員80余名中18名の参加でしたが金沢市内の某ホテルで賑やかに開催されました。

本支部の特異な点は二つ有って、一つは十数年前から総会は7月の第一土曜日某ホテルで開催するとし、以前は夕食をとりながらでしたが最近昼食会となっております。以前の様に二次会でネオンの巷に繰り出す元気が薄れて来た事にもよります。

二つ目は基金の積み立てです。S50年代県の出納長をされていた山崎支部長（高専A12）の時に毎年の

会費の徴収は手数がかかるので一口5千円で基金を設けその果実（利息）を会の運営費に当てるとした事です。

今日基金は300万余になっておりますが、残念ながら超低金利下不足分は基金の取り崩しで賄っております。しかし財政的には確固たるものが有ります。

又、キャンパスが那加から柳戸に移転した時に松下支部長（高専A23）の発案で新キャンパス見学を兼ね岐阜に出向き中庭に石川県の県木である樟（能登ひば）の苗木3本を植樹した経緯が有り、H25年の総会であるの木はどうなっておる、当時標識をしなかったが今からでも設置してはどうかとなり、昨年大学事務局と連絡を取り8月22日写真のような石柱

を設置する運びとなりました。

会員の中には加賀野菜（金時草・源助大根・甘栗南瓜・太胡瓜等）の普及に努めている大家、8期目を迎えた県議、土砂災害等があると必ずマスコミに引つ張り出される大学教授、今年の植樹祭は石川県でしたが両陛下の金沢城視察の説明の大役を仰せつかった県職員、春の叙勲の栄によくした元農業高校長と多彩です。今後とも同窓の絆のもと地域社会に貢献してゆく所存です。



長野北信支部

坂本 淳

当支部は長野県北部地域に在住、勤務する会員二十五名で、年一回の総会・懇親会や有志での飲み会、メールでの情報交換（本部から毎月送信されるイベント、学内情報の転送も）を行っています。

平成二十七年度は七月十一日に当支部の総会・懇親会を開催しました。総会には、本部から大場恵典先生（共同獣医学科産業動物臨床学教授）の臨席をいただき、長野市内のホテルで会

員八名、長野中信支部から藤森

支部長の出席がありました。三

澤支部長が挨拶し、大場先生は

大学の状況をお話していただき、

その後、懇親会で会員近況報告

や出席者間の懇親を深めました。

数年前から支部総会等の場で

長野県一支部に統一してはどう

か検討してきました。当支部も

年々会員が減少してきています

が、細々と活動しています。中信、

南信支部活動が停滞してしまし

た。そこで、支部事務局から中

南信地区の同窓生をピックアップ

して連絡をとりはじめ、現在

十名の方から統一について賛同

いただいております。

平成二十七年度の役員改選で

新たに畔上支部長が選出されま

した。就任の挨拶にお

いて「今回の役員は長

野県支部を設立するた

め構成されたもの」と

言葉があつたように、

今後、中南信地区か

ら多くの賛同者や役員

を選出し、長野県全県

で支部同窓会活動を継

続、発展させていき

たいと思います。



事務局からのお知らせ

—各務同窓会の今後を考える—

同窓会員の皆様には、日頃より格別のご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年の夏は猛暑が続き、とりわけ岐阜県内では、国内の最高気温を記録する日が続きました。また、世界の7月と8月の平均気温は、記録の残る過去百年ほどの間で最高であったと報道されました。その一方で、9月には各地で大規模な水害も発生しました。皆様におかれましては、お変わりはありませんでしたでしょうか。

さて、まもなく岐阜大学は創立百周年の節目を迎えます。水野会長は、代表委員会の場で、それに向けてより密な同窓会ネットワークをつくっていくことを呼びかけられました。具体的な提案の一つに、各支部の総会を十年に一度くらい大学内で開催してはどうかというものがあります。各務原キャンパスを卒業された会員の皆様は、柳戸キャンパスを一度も見たことがないという方も多いでしょう。柳戸キャンパスの卒業生でも、大学がかなりの変貌を遂げつつあることを詳しくはご存じないのではないのでしょうか。もし大学訪問の希望がございました

ら、現職教員で構成される同窓会事務局としては、可能な限りのお手伝いをしたいと考えております。ぜひともお気軽にお申し出いただければと思います。

事務局の重要な役割の一つに、現役学生に対する勧誘活動があります。今年度も、入学式当日に会費納入の呼びかけを実施いたしました。しかし、近年の活動は、この呼びかけにとどまっており、在学生に対する継続的な勧誘活動はおこなわれておりません。時代とともに同窓会の組織や活動形態も変化してきましたが、それ以上に学生の考え方や生き方も変わりつつあります。同窓会に入会する意義を学生にいていねいに説明し、納得してもらうことは、それほど単純なことではありません。各務同窓会の存在意義と時代に即したあり方について、今後とも議論を重ねていくことが必要だと感じられます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げるとともに、今後のよりいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

寄附金のお願いについて

平成 20 年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続して行っていますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、
下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係 気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第 96 号

平成27年11月30日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

TEL (058) 293-3411

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kaqami/>

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

別紙様式第1号

岐 阜 大 学 長 賜

寄附者 氏名
住所
卒科
卒園 (卒年) 第 回 (昭和 年 卒
平成 年 卒)

(組織にあつては、組織名及び職・氏名をお願いします。)

金額を記入してください。

します。

76

- 1 寄附金額 円
- 2 寄附の目的及び条件
- 目 的 岐阜大学における学術研究費
- 条 件 なし
- 3 寄附金の名称
- 岐阜大学奨学寄附金
- 4 その他（主たる寄附金対象部局等）
- 応用生物科学部共通
- （対応官任室：職名 応用生物科学部部長 氏名 堀井 博一）